

## 【今週の注目疾患】

### 《A群溶血性レンサ球菌咽頭炎》

2023年第42週に県内の小児科定点医療機関から報告されたA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は3.80（人）であった。本疾患は季節性があり、冬季及び春から初夏にかけて患者数が増加する特徴が見られるが、2021年以降明らかなピークを形成せず、患者報告数が減少した状況が続いていた。2023年は第34週以降、定点当たり報告数が増加傾向にあり、第39週から第42週の定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比較して多い（図1）。複数の保健所管内で定点当たり報告数が増加傾向にあり（図2）、今後の発生動向に注意が必要である。なお、全国の発生状況についても、過去5年間の同時期と比較してかなり多いことが報告されている<sup>1)</sup>。

図1：2019年～2023年42週の県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数

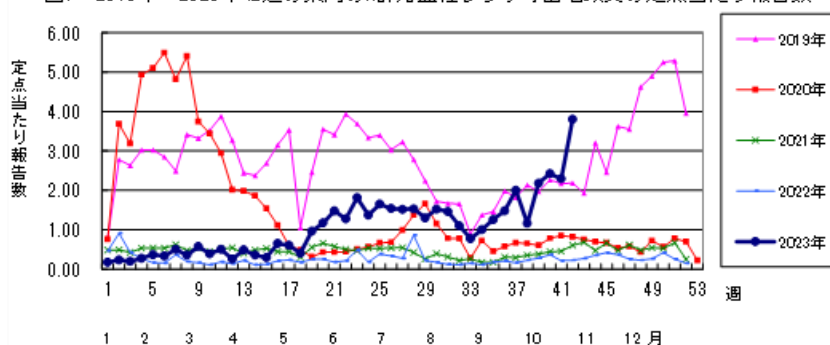
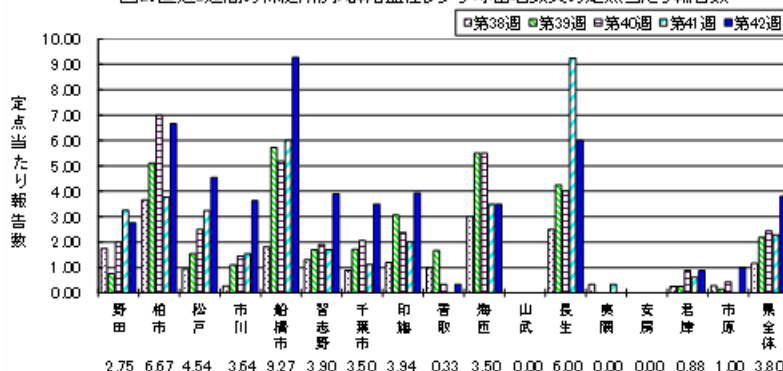


図2：直近5週間の保健所別A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数



2023年第1週から第42週までに県内小児科定点医療機関から報告のあったA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者数は5,736例であった。年齢別では、5歳が849例（15%）と最も多く、次いで6歳765例（13%）、4歳677例（12%）であり、9歳以下が全報告数の80%を占めた。

A群溶血性レンサ球菌は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよくみられるグラム陽性菌で、菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こす<sup>2)</sup>。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はいずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多く、3歳以下や成人では典型的な臨床像を呈する症例は少ない。本疾患は通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多い。感染性は急性期にもっとも強く、その後徐々に減弱する<sup>2)</sup>。

潜伏期は2～5日であり、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴う。咽頭壁は浮腫状で扁桃は浸出を伴い、軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌がみられることがある。予防としては、患者との濃厚接触を避けること、うがい、手洗いなどの基本的な感染対策が有効である<sup>2)</sup>。

■参考・引用

1)厚生労働省・国立感染症研究所：IDWR 感染症週報 2023 年第 40 週

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2023/idwr2023-40.pdf>

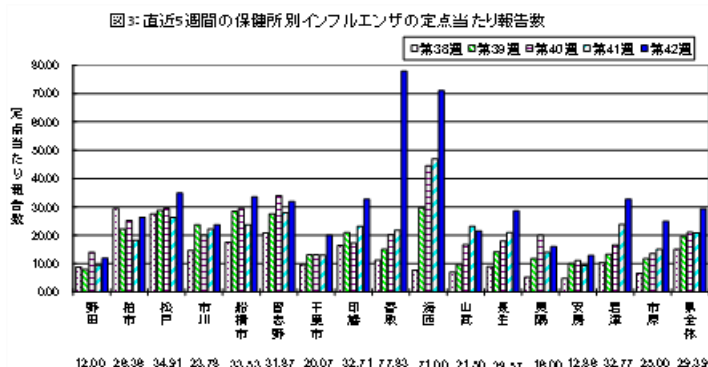
2)国立感染症研究所：A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>

《インフルエンザ》

2023 年第 42 週の県全体のインフルエンザの定点当たり報告数は、前週の 20.86（人）から増加して 29.39（人）となった。例年より早期に患者報告数の増加が見られているため、今後の発生動向に注意が必要である。年齢群別では、2023 年第 42 週に報告のあった計 5,995 例のうち、10 歳未満が 2,638 例（44.0%）と最も多く、次いで 10 代 2,069 例（34.5%）、40 代 360 例（6.0%）であり、20 歳未満で患者報告数全体の 78.5%を占めた。

地域別では、香取（77.83）、海匝（71.00）、松戸（34.91）、船橋市（33.53）、君津（32.77）、印旛（32.71）、習志野（31.87）保健所管内で警報レベル（開始基準値：定点当たり 30.0 人）を超えた（図 3）。



インフルエンザ予防のため、こまめな手洗い、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、室内でのこまめな換気、適度な湿度の保持、予防接種などを心がけていただきたい<sup>1,2)</sup>。

■参考・引用

1)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ注意報の発令について（令和5年9月20日）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/infulu-tyuihou2023-2.html>

2)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザから身を守ろう

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況】

2023 年第 42 週の県全体の定点当たり報告数は、前週の 3.75 人から減少し、3.11 人であった。

地域別では、君津（4.31）、夷隅（4.20）、香取（4.00）保健所管内で患者報告数が多かった（図）。

図：直近5週間の県内 COVID-19 定点当たり報告数の推移(保健所別)

